

# はくさんさん

## コミュニケーション

第66号 平成20年7月  
伊豆市法住寺 瓜島信行 発行

オーストラリアの大学に留学している学生さんが夏の休暇で帰ってきた。彼女は英語の教師になることを望んでいて、その授業法を学んでいる。

向うの高校で授業実習すると、自分の考えや意見をどんどん出してきて、日本との大きな違いを感じた。日本では、概して人前で話すことを恥ずかしがり、自分から進んで発表しないと言うのだ。

彼女も留学当初は、自分の考えを伝えるより、相手を理解しようとして聴くことを大切にしてきた。しかしそれでは彼女が何を考えているのか分からないと思われてしまい、今では自分から進んで話し、当地の文化に馴染むように心がけているとのことだった。文化の違いとコミュニケーションの大切さをあらためて感じている様子であった。

\*

随分前の話しになるが、日本の住宅が西

欧化するに伴って「襖の文化、ドアの文化」が話題になった。日本の伝統的である襖は、隣りの気配を感じ取れる。だから直接言葉に出さなくとも、相手を思いやり出過ぎない様に、相手に沿って気持ちを通わせていく、これが日本人の伝統的な慎ましやかな美徳であった。いちいち口に出すより阿吽の呼吸が心地よい、襖の文化である。

これに対しドアは中と外とを遮断してしまうので、ドアの向こう側の様子が分からない。だから相手を理解する為には、言葉でキッチンと気持ちを伝え合い、コミュニケーションしていくのである。欧米のドアの文化である。

\*

国際化が進み、文化、言語の壁を越え、相互理解する為にコミュニケーション能力がますます必要となっている。母国・日本の言葉で

の言葉で素直に日常会話ができ、表情豊かに表現し、相手に伝えること



が、一層大切になってくる。国際化という何かハイカラなことを考え、今までの伝統的な日本の文化はダメ、国際的に通用する英語文化はマルと、マルバツ思考しがちである。しかし豊かな自然から多くの恵みを戴き生活してきた日本人、大自然から培われてきた謙譲等の美徳は、これからも大切にしていきたいものである。彼女にも、慎ましやかな美しさをもちつつ、キッチンと自己表現できる国際人になって欲しいものである。

\*

ところで「伊豆の人間はのんびりしている」と謂われる。「のんびり」は、仕事が出来ないということではなく、自然の中で豊かに生きていることの証である。この伊豆の皆さん、そしてお寺の周りの皆さん、コミュニケーション能力のある人が実に多い。畑や田圃の仕事をしながらも、道行く人に挨拶し、農作業の手を休めてよもやま話。時には初対面の人でも心を開いて話し込む。その為に仕事がかどらなかつたなど、さらさら思わず、また農作業に向かう。実に柔和質直（にゅうわしちじき、正しい方向を見つつ、心、気持ちは柔軟。お経の通りの人々、仏子である。

# お寺の庭に花いっぱい

## 半夏生

昌子寺庭の山務日誌より

七月二日、今年も一年の折り返し点に立ちました。お寺の庭の半夏生も白くなり、夏の到来を告げています。暑さの中、お詣りされる方々に、この白い葉が一時的の涼しさを与えてくれます。以前、玄関にこの半夏生の一葉を花瓶に付けておいたところ、訪れたお上人から次の様な話を聞きました。

「半夏生」は暦の上では夏至から十一日目にあたる日から五日間のことで、仏教では九十日に渡る夏の修業「夏安居」の中日ともいわれ、江戸時代の農民にとっては半夏生までに遅くとも田植えを終えなければならぬとされてきた、と。

この時期は農作業が一段落して、体を休めながらも大雨に用心していた時期であった様です。

\*

江戸時代から、この半夏生の葉の白くなる時期を見て人々は農作業の節目をつけて



旅路の幸せと無事を祈りたいと思います。

## 簡単な中にも心を込めたお葬儀

生活の変化に伴ってお葬儀の方法も変わってきます。ご本尊さまに導かれ霊山浄土に旅立つという根本は変わりませんが、お手伝いや葬儀会場等は、従来の近所で助け合うという良さを大切にしつつ、柔軟に対応していきたいものです。

## 本堂でのお通夜

その一つとして、お通夜を本堂で行うことが出てきました。今までお通夜・お葬儀を本堂で行った方から話を伺いました。



・何よりご本尊さまの前で式が行われ、荘厳であり落着いた気持ちで故人を送ることができた。

・お通夜の後、翌日午前中にそのまま本堂でお葬儀、出棺、火葬となり、全体に良い流れで行うことができた。

・自宅が何かと手狭なので、本堂でお通夜させてもらい、大勢の弔問の方に対応できた。

・葬祭会館等を借りるより、祭壇の費用、会場費、飲食費等、経費の面で随分助かった、等々。

良い評価を頂いていますので、護持会役員会をもち、お葬儀の方法等、更に検討していくことになりましたが、使用料だけは決めておくことにしました。

これから社会に開かれたお寺づくりを進めていく必要がありすが、そうしたことから檀信徒以外の方でも利用可能にしました。

## お通夜の本堂・書院の使用料

檀信徒・永代供養の場合 三万円

一般の場合「脇間を使用」 十万円

この使用料は、光熱諸経費に当て、また護持会計にも入金します。尚、お葬儀での使用は従来通りで使用料はありません。

## 永代供養料

また永代供養もありますので、暫定ではありませんが、永代供養料も決めました。

(ア) 永代供養料三十万円

霊位のお骨はそのままにお預かりし、一周忌、三回忌、…、三十三回忌まで、当山住職が責任をもってご回向しお祀りします。その後はお骨を合祀して永代供養します。

(イ) 永代供養料 五十万円

(ア)に加え、五十回忌まで、五十日間、ご供養、ご回向致します。

尚、お葬儀に係る布施は別に頂いています。又ご志納金がある場合は、従来通り志納金会計に入金し監査をうけ皆様に報告いたします。

今後、永代供養塔を建立する時に、永代供養について再検討する予定です。

## 花まつりコンサート

今年も五月の連休最後の日に花つまりを行いました。お釈迦さまの誕生日の四月八日は、今の暦(太陽暦)でいえば五月のちようどの頃、当山の銘木「大つつじ」も咲きます。そこでこの時期にお釈迦さまの誕生をお祝いする花まつりを行っています。地元で活動する方をお願いしてのコンサート、今年はおカリナでした。八幡の川口礼子さんはじめ、伊豆の国市の二人を加えてのおカリナ、小川の小川道雄さんのギターが加わり、とても素敵なコンサートとなりました。



檀信徒だけでなく一般の方も大勢参加、オカリナの素朴で奥深い音色が、ギターの伴奏と共に本堂に響きました。「良い演奏だな、良い響きの本堂だな」そんな思いでのゆったり豊かな一時期を過ごしました。

## これから主な行事



お盆のお施餓鬼会

八月三日(日) 午後三時



少年少女・寺子屋

八月七、八日(木、金)

詳しいことは別紙で



秋の彼岸会

九月二十三日(火・祝日) 午後二時



伊豆連合大題目講

十月四日(土) 午後一時

会場 法住寺

伊豆市・法住寺、妙國寺、伊豆の国市・宗徳寺、最明寺、本道寺の檀信徒の皆さんが集まります。井本甲男会長を中心に護持会も協力します。

お題目修行に続いて、東部地区の若手僧侶三人による法話があり、どなたでも参加できます。皆さん、一緒にお話を聞きましょう。会費五百円です。



数年前まで子供たちが虫を捕まえて妻のところに持っていくと、都会出身の妻はその虫に逃げ惑っていました。最近慣れたようでもちよつとやそつとのことでは動じなくなってきました。でも蛙は苦手みたいです。

\*

先日、地元の西川の葦狩りに参加し、地元の皆さんと草刈機を回してきました。この西川は私が小学生の頃、よく釣りや、遊びをした思い出の詰まった川です。この川には、沢山の遊び、楽しみだけでなく、自然の怖さなど色々なことを教えてもらいま

した。また川の中には、ハヤ、ウグイ、ヤマメ、アユ等の魚や、カニ、亀、目に見えない虫までいろいろ生き物が暮らしています。その中に、蛍がいます。今年はこの西川の蛍が、例年以上に沢山舞い、とても綺麗だったという話を聞きました。私も是非その舞を見たかったと、「灯台もと暗し」とはまさにこのことだと残念に思いました。

\*

この蛍の一生は、

①五月〜六月 オスとメスの蛍(成虫)が交尾して、メスが苔(コケ)等に産卵(黄色い卵を約100個)。

②産卵から約一ヶ月で、卵が孵化し幼虫となり直ぐに水の中に入り、カワニナなどを食べながら川底の石の下などの暗い場所です。遠い春を待つ。

③翌年四月〜五月頃 幼虫は水の中から陸にあがり、土の中に潜り一カ月後に蛹(さなぎ)に変化。

④蛹になって十日後 蛹から羽化し、土から出て成虫となり、交尾相手を探す。蛍の命は残り約一週間と短命。とても短い命だそうです。

\*

ただ短いというのは人間を基準に考えているからで、蛍にとつてはこの一週間で我々の八十年や九十年なのかもしれません。きっと大往生なのだと思います。この間に蛍は一生懸命に生き輝き、子孫を残します。そして私たちに光の舞を見せ、心を癒し、感動を与えてくれます。

私たちにとつて、蛍の光は、あたえられた時間を一生懸命に生きるからこそ美しいのであり、その光はまるで「どんな人生でも一生懸命に生きることが大切で、輝けることなんだ」と教えてくれている気がします。そして「この一生懸命が時に、周りの人を癒し、感動を与えるんだ」と語りかけている気がしました。まさに蛍の光は仏さまの教えの光だと思います。

\*

私もまだまだ若輩で偉そうなことはいえません。ただ仏さま、ご先祖さま、そして親から頂いたこの命を大切に生き、毎日の生活のなかで全部でなくても、一つでも一生懸命に何かをすることで、時に蛍のように輝けるのではないのでしょうか。私も蛍のように、少しでも周りの皆さんに貢献出来たら幸いです。

### 御志納金 「三月〜六月」

五十万円	元村	伊東正美殿	尊父葬儀
五十万円	元村	手老英子殿	尊父飯田常弘殿七七日忌
二十万円	修善寺	杉山慎一殿	尊祖父葬儀
十万円	川崎市	山下泰殿	尊祖母一周忌
五万円	藤沢市	齊藤智恵子殿	夫君七回忌
五万円	清水	山下克俊殿	墓碑改修
五万円	西	山田安夫殿	尊父三回忌